

# クリスチャンの研究者として

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)\*

July 20, 2019

## 1 はじめに

このたびは、KGK キリスト者院生会にお招きいただきありがとうございます。

今年の3月末で、国際基督教大学 (ICU) を退職しました。いまは、名誉教授という肩書を頂いて、専門の数学の研究を続けるとともに、児童養護施設<sup>1</sup>や、母子生活支援施設<sup>2</sup>での学習支援などのボランティアをしています。

研究しているのは、数学の中の代数的組合せ論という分野で、正多角形や、正多面体のように対称性の高い構造と、それに関係する理論を研究しています。携帯電話などの通信で混信が起こったり、コンピュータのデータにエラーが生じたときに、それを修正して元に戻す誤り訂正符号という技術があり、それとも関係していますが、わたしが研究しているのは、生活とは直接関係ない、いわゆる純粋理論における問題です。それが解けると、定理と証明という形にし

て論文として査読付き国際学術誌 (Refereed International Academic Journal) に発表しています。

6月の終わりから7月初めにかけて2週間スロベニア<sup>3</sup>で国際会議と若手を中心とした研究会があり行ってきました。国際会議では、研究成果の発表もしましたが、若い研究者が何人か質問をしてきて、帰国後も頻繁にやり取りをしています。

大学では、数学を中心に教えていたわけですが、わたしは、文系の学生が使う数学や一般教養、理系の学生の基礎科目や、数学専攻の学生が学ぶ専門科目など、様々な授業を担当してきました。それぞれの学生にとって、何がたいせつなのかを考え、学習につながらない教育は単なる自己満足に過ぎないと考え教えていましたが、教育は、本当に難しいと思っています。

また、障害を持った学生や、様々な困難を抱えた学生の学修支援や、ボランティア活動を通して学ぶ、サービス・ラーニングというプログラムの責任も持ち、学生を国内外でのサービス活動に送り出したり、アジアやアフリカの国々に学生と一緒にいき、受け入れ機関の方々との交流やプログラムの調整をしていました。先程、ボランティアをしていると言いましたが、仕えるところをもってサービス活動をしながらかつ、サービス・ラーニングという生き方に出会えたことにとても感謝しています。

自己紹介とともに、大学の先生のしごとについてすこし話してみました。

\*KGK キリスト者院生会, 2019年7月20日

<sup>1</sup><児童福祉法 41 条>児童養護施設は、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設 (1948 年までは「孤児院」、1998 年までは「養護施設」)

<sup>2</sup><児童福祉法第 38 条>母子生活支援施設は、配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて、これらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設とする。(1998 (平成 10) 年の児童福祉法改正により、「母子寮」から「母子生活支援施設」に名称が改称)

<sup>3</sup>Bled and Rogla, Slovenia

## 2 ホームページ

わたしのホームページ<sup>4</sup>からは、ICU Open-CourseWare<sup>5</sup>へのリンクもついています。授業の内容は、講義ビデオとともに、インターネット上で公開していますので、興味のあるかたは、ご覧になってください。

わたしのホームページには、証やメッセージなども、掲載してあります。わたしが、どのようにして、クリスチャンになったかに興味を持たれる方がおられるかもしれませんが、2009年に国際基督教大学のキリスト教週間の特別キリスト教概論というプログラムで、お話しさせて頂いたときのスクリーンを持ってきました。興味のある方は、読んで頂ければと思います。この証は、私以外の個人に関わることも含まれているため、ホームページには掲載してありません。その点は、ご理解頂ければ幸いです。

## 3 聖書の会

昨年末までもう一つたいせつにしていたのが「聖書の会」です。2003年から学期中毎週木曜日の夜にキャンパス内にある我が家で学生たちと聖書を学んでいました。途中、人数が少なくなり、続けられるかなど不安なときも何年か続きましたが、ここ10年ほどは、安定して、5人、10人、15人、20人、25人と集まる人が増えていきました。

始めるときに、先輩の先生から「クリスチャンではない学生も気楽に参加することができる会になるといいね」と言われ、聖書研究会とはせずに「聖書を一緒に読みませんか」と案内を出し、気楽に参加できる会をめざしました。ある時期、障害や様々な困難を抱えた学生の支援の責任も持っていたので、この支援の働きを通して会う学生も誘いました。

皆さんの周りには、発達障害などもふくめ障害を持った学生や、困難を抱えて、大学

に來れなくなったり、大学には來ているようだが授業には出席できなくなっている知人・友人はいませんか。ひとは、困難がひとつだけなら乗り切れても、それが多方面にわたると、精神的にも病んで、自分ではどうにもならなくなってしまうように思います。わたしが相談にのって解決にいたることは、ほとんどありませんが、様々な周囲のひとたちが、互いに支え合うことは、とてもたいせつだと考えています。

聖書の会では、家内が毎回、ケーキやクッキーとお茶を用意してくれましたので、それを楽しみに來ていた学生も多かったと思います。ディスカッション・スタイルで、福音書を中心に、毎回5節から10節読み、わたしが問いを用意しておき、みなで考える形式を取りました。特に、福音書記者が、そしてイエス様が、何を伝えようとしているのかを、丁寧に読み取っていくことをたいせつにしました。

正確にはわかりませんが、クリスチャンは3分の1程度で、クリスチャンのほうが少ない会でした。マルコ、ルカを読んでから、使徒行伝を読み、それから、マタイ、ヨハネ、最後にヨハネの手紙を学びました。

ヨハネには、「愛する」という意味の動詞(ἀγαπάω)が頻繁に現れますが、その原義は、Welcome という意味だということを知り、お互いに Welcome することを、たいせつにしました。この会では、何でも聞いていい、何を言ってもいい、基本的に、発言を否定せず、ことばの背後にあるものに思いを寄せ、どのように、うけとったらよいかを考えるようにしました。皆さんの教会や、出席しておられるあつまりで、これは聞けない、これは言えないということはありませんか。

最後には、一人ひとりに感想を言ってもらっていましたが、「きょうはまったくわからなかった」とか、「きょうはパス」となにも言わないことも歓迎。「むずかしいよね。と応じ『わからなさ』を共有できるようにしました。」パスをすることが多い人が、深刻な悩みや、経験や、葛藤を打ち明け、みな、何も言えなくなることもありました。

だれかが、ひとを連れてきたら、はじめ

<sup>4</sup>Homepage URL <https://icu-hsuzuki.github.io/science/index-j.html>

<sup>5</sup>ICU OCW URL <http://ocw.icu.ac.jp/>

て来た人を歓迎することで、連れてきた人を Welcome する。ときには、自分の考えを長々と話したり、いろいろな質問を投げかけてくる人もいましたが、みな、Welcome しました。

何を聞いてもよい、何を言っても良い、何も話さず、ケーキや、お菓子をたべているだけでもよい。居場所としてのしんでもらうことをたいせつにしました。聖研ということばを使うひともいましたが、特に、クリスチャンでない人たちは、読書会とか、ホームパーティとか、鈴木サロンとか呼んで誘い合わせて来てくれました。そのような、呼び方も、もちろん、歓迎でした。

聖書の数節をていねいに考えながら読んでいく形式をとりましたが、聖書の箇所をことばとして理解するよりも、一人ひとりの応答から、その背後におられる神様の働きを見させていただくことを願っていたのかもしれない。

最初は、わたしとの関係で来ている人が多かったと思いますが、だんだんと出席者同士の交わりが始まり、いろいろな交友関係ができていったようです。障害を持った学生の支援も、自主的にしてくれるようになり、お茶を入れたり、資料をくぼったりと、みなと一緒に学ぶ会、そして、多くの人の居心地の良い居場所となっていたように思います。

学内住宅から、転出したことを機に、昨年末で、一旦終わりにしましたが、407回目の最終回は、45人集まってくれました。いまは、そのメンバーが、自分たちであたらしい会を始めています。会の名前は「やっぱり一緒に聖書を読みませんか」です。

ある参加者が、この会は、クリスチャンとノンクリスチャン、うまく言えないが他の意味でも境界がない会だと言っていました。福音書で描かれているイエス様も、区別をされなかったのではないのでしょうか。いろいろな意味で。

## 4 志学会

わたしは、ここにおられる鎌田主事や、他の方々と協力して「志学会」の責任の一部を担っています。カンザス大学や筑波大学で教えられた経済学者の大谷順彦（よしひこ）先生が現在は会長を務めてくださっています。

志学会について、ホームページ<sup>6</sup>には「キリスト教信仰を有する若手研究者や、研究職またはそれに準じる専門職を目指す大学院生（または学部生）を励まし支援する任意団体」とあります。

KGKとは独立の団体ですが、主事の方々にも何人かお手伝いいただいております。

毎年、夏にリトリートを企画、他に講演会を開催し、限られた額ですが、寄付を募って、研究助成金も支給しています。ネットワークを築き、キリスト者の若手研究者や、それをを目指す学生の相談にものりたいと願っています。今年のリトリートは、8月23日・24日に、浜名湖バイブルキャンプ場で開かれます。案内もできており、交通費などの補助もありますので、ぜひ参加してください。

有賀寿（ひさし）先生をご存知ですか。KGKの初代総主事でもあり、すぐ書房という出版会社をたちあげられ、すぐれた本をたくさん世に出され、2015年に天に召されました。この有賀寿先生が、キリスト者である学生が、将来、大学やその他の研究機関で信仰を活かした研究や教育に従事するものとなる志を持つことを励ますために、大学教員などに呼びかけて2002年に始まったのが「志学会」です。

「キリスト者の研究者が、研究・教育・その他の専門的職務において、信仰を活かした良い働きをするようになること」これが、有賀寿先生のそして、志学会の願いです。

みなさんは、「キリスト者の研究者が、研究・教育・その他の専門的職務において、信仰を活かした良い働きをするようになること」とはどのようなことだと思いますか。

わたしは、その答えは、一人ひとりに委

<sup>6</sup>Homepage URL <http://shigakukai.org>

ねられていると思います。その意味で、明確な答えはないのかもしれませんが、しかし、わたしは、定年を迎えた身ですから、わたしが伝えられることはなんだろうと、考えてみました。そのことを、次にお話ししようと思います。

## 5 キリスト者の研究者として

わたしは、学び、研究することによって得られるもっともたいせつなことは、謙虚さではないかと思っています。

皆さんは、現在、様々なことを学んでおられると思います。少しずつ理解し、さらに深いことを理解できるように学ぶ、成長していくことでもあります。それは素晴らしいことです。それは、同時に、自分は、どれほど理解できていないかを知る営みだとも言えます。今回も、スロベニアで、若手の研究者からいろいろな質問を受け、それがわたしの研究分野でありながら、殆ど答えられませんでした。時間をかけて、勉強し直し、すこし応答をしましたが、真剣に問題を考え始めると、自分がどれほど理解できていないかを知らされるのが通常ではないかと思っています。

さらに、自分が学んでいること、研究していることが、どのように他の問題とつながっているかがわからない。おそらく、みなさんも、自分が勉強していることが、何になるのだろうか、わからなくなるときがあると思います。わたしは、全く役に立たない数学を勉強しているので、なおさらです。

今日は、数学のお話を長々とするつもりはありませんのでご安心ください。でも一つだけお話ししたいと思います。皆さんは、Corrigendum という言葉をご存知ですか。数学には、Corrigendum というタイトルの論文がたくさんあります。訂正という意味です。もっと直接的には「わたしが前に書いた論文の定理は間違っていました」ということです。数学は一旦ある定理が証明されると、時代が変わっても、条件を満たす限りにお

いて絶対正しいという、不変性を特徴としていますが、論理が複雑になって、やはり間違ってしまうことがある。査読者がチェックしますが、それも十分できないことがあります。間違いが見つかる、間違ってしまったという論文をまた出すのです。潔いと思いませんか。最近、論文数や情報量が多くなりすぎて、Corrigendum が減っているようです。

精緻な論理展開の訓練は、他の問題を考えるときにも、とても、たいせつなことだと思います。わたしが数学を研究するのは、単に自分の知的好奇心を満たすためだけではないのかと悩んだ時期もあります。わたしが研究していることは、直接的に、ひとを幸せにすることには関係しないかもしれないけれど、数学の教育も含め、真理を探求する、ひとの営みの中でとてもたいせつなことだと、最近を考えています。

先程、聖書の会の話の中で「わからなさ」をたいせつにすると話しましたが、聖書も理解することがとてもむずかしい書物です。神様のことを、人間のことで書いているのですから、当然かもしれません。

わたしは、二年間で旧約聖書を一回、新約聖書を二回読む計画で、2011年から、聖書通読の会も主催しています。Bible Reading Club の頭文字を使って、BRC2019<sup>7</sup> が現在進行中です。今朝読んだのは、エステル記の7章と8章でした。8章11節には

こうして王の命令によって、どの町のユダヤ人にも自分たちの命を守るために集合し、自分たちを迫害する民族や州の軍隊を女や子供に至るまで一人残らず滅ぼし、殺し、絶滅させ、その持ち物を奪い取るものが許された。

(新共同訳)

とあります。「女や子供に至るまで一人残らず殺す」です。恐ろしいことです。自分たちを迫害しているからという理由で、こんなことをしてもよいのでしょうか。

<sup>7</sup>BRC2019 URL <https://icu-hsuzuki.github.io/science/bible/brc2019.html>

ちょっと前に読んだ歴代誌下 15 章 13 節には

子供も大人も、男も女も、イスラエルの神、主を求めない者はだれでも死刑に処せられるという契約を結んだ。(新共同訳)

とあります。なんとも恐ろしい契約です。むしろ、背景をていねいに、まなぶことはたいせつですが、聖書を神の言葉として読むときに、どのように受け取ったら良いのか、聖書に書いてある、こういった「非人道的」なことを非難するひとたちに、どうこたえたらよいのか、正直ことばをうしないます。

しかし、だからこそ、謙虚になり、神様に信頼して、聖書からのメッセージをうけとっていく営みを続けていきたいと思えます。簡単になんらかの答をみつけ、自分を納得させることはできるかもしれません。しかし、それは、神様が喜ばれることでしょうか。継続的に学び、研究しながら培われる謙虚さをもって、真理を探求し、神様のみこころを粘り強く求めながら、達し得たところにしたがって歩いていく営みはわたしたちの信仰生活のたいせつな部分なのではないでしょうか。

みなさんは、世界中の人々がみなさんのようにクリスチャンになれば、人々が平和に、豊かな生活をおくることができると思えますか。わたしは、それほど、単純ではないのではないかと思います。ヨハネによる福音書の 2 章 23 節から 25 節には

23:イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人々がイエスの名を信じた。24:しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、25:人間についてだれからも証ししてもらわなければならないからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。(新共同訳)

とあります。多くの人々がイエスの名を信じたのですが、イエス様は、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられ、彼らを信用されなかったとあります。

少し、ショッキングなことですが、世界の様々なところで起こっている問題や、わたしたちの周囲の問題、わたしがボランティアをしている、児童養護施設や、母子生活支援施設、難民の問題などを見ると、問題は単純ではないとわたしは思います。イエス様に救いがあります。しかし、みんながクリスチャンになればよいというほど単純ではないのでしょうか。

今年になってから、わたしの友人・知人の 4 人が、癌や難病などとても重い病気になっていることを知りました。二人はクリスチャン、二人はクリスチャンではありません。そのことは、重要ですか。その 4 人のひとたち、そしてわたしは、どのように、このことと、向き合えばよいのでしょうか。

神様が創造され、保持しておられるすべてを理解しようと求めながら、神様の御心、真理を探求する営みは、どれも、たいせつなことだと思います。社会科学や、自然科学、それに、ひととは何かを考えたり、芸術や文化なども。生命倫理や環境の問題や、AI などによって社会がどのように変わっていくかなどということも。

一人ひとりの価値、尊厳は、聖書では、神様が一人ひとりを愛しておられることを根拠とすることができると思えますが、クリスチャンの中でも、一定しないかもしれません。そして、世界で、人間の尊厳について、一人ひとりのたいせつさにとって、どのように合意していったら良いのでしょうか。わたしたちは、一人の信仰者としてどう考え、行動するかを決断していったらよいのでしょうか。

他にもたくさんあると思えます。わたしたちが答えを持っていない問がたくさんあること、そして、それは、キリスト者として生きる上で、そして、世の光、地の塩として生きることを考えるときに、責任をもって考えていくべき問題だと思っています。

研究する内容は、殆どの場合、キリスト者

かどうかは関係ないでしょう。しかし、キリスト者が責任をもって、問を持ち、神様の前にへりくだって研究することはとてもたいせつなのではないでしょうか。

## 6 自分の大学院生時代をふり返って

みなさんの中には、これから、どう生きていったら良いか、迷っている方も多いのではないかと思います。じつは、わたしも、特に、大学院生時代のことを思い出してみると、とても、不安で、精神的にも不安定だったように思います。もし、スクリーンにそのころの自分やその内面が映し出されたら、直視できないように思います。

わたしが、いま、なにか言えるとする、神様の御心を求めつつも、その答えを得ることを急がないことかなと思います。謙虚に日々を丁寧に生きながら求め続けることでしょうか。

わたしも、学生時代に、社会福祉に関わるか、そのまま数学を学び続けるか迷った時期があります。また、アジアの人々とともに生きるためには、どうしたら良いかを考えていた時期もあります。その中で、数学の道を、そして、大学で数学を教え、研究を続ける道を歩んできました。しかし、ある時から、社会福祉のことに関わり、アジアやアフリカの人々とともに生きる道も同時に、模索してきたように思います。

ピリピの信徒への手紙の1章6節に

あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。  
(新共同訳)<sup>8</sup>

この箇所と関係した好きな言葉があります。

Please Be Patient. God Is Not Finished With Me Yet.

<sup>8</sup>I am confident of this, that the one who began a good work among you will bring it to completion by the day of Jesus Christ. [NRSV])

この頭文字をとって、PBP GINFWMY と書いたバッジも売られています。「忍耐してください。神様のわたしに対する創造の業はまだ完成していませんから。」神様の創造のわざがいまもわたしたち一人一人の内に続いていると信じ、その完成への希望をもって、謙虚に生きていきましょう。

## 7 最後に

礼拝は、カトリックではミサ、派遣という意味です。礼拝の最後には、祝祷があると思いますが、そのいずれにも、派遣の意味が含まれているそうです。つまり、礼拝の最後には、送り出されるのです。礼拝の最後はいつも、始まりです「行きなさい Go in peace!」。わたしは、毎週、牧師先生の祝祷を聞いて「さあ行くか」という気持ちで一週間を出発することになっています。一週間は、神様の御心を生きることから判断すると、失敗ばかりのこともあります。そして、また、礼拝に戻ってきて、「行きなさい」という声を聞いて、出ていく。礼拝が、そこで完結するものではなく、使命をもって送り出される起点となることを願っています。

## 祈り

祈ります。

天の父なる神様。どうか、わたしたち、一人一人と共にいて、わたしたちがへりくだってあなたの御心を求め続けることができるように強めてください。そして、わたしたちの日々の歩みの中で、あなたの御前から迷い出さないように、守り導き、そして、あなたの御業によって、造り変え、わたしたちが互いに愛し合うことができるように、成長させてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン